

文化による地域への愛着・誇り醸成事業費

事業評価個票				部局名	観光文化スポーツ部			
短期アクションプラン	テーマ	テーマ1 郷土愛を育み未来を築く子育て支援・多彩に活躍する人づくり						
	施策	施策5 文化・芸術、スポーツの振興						
	目的	オリンピック・パラリンピックなどに向けて、スポーツや文化・芸術を振興し、郷土への愛着と誇りを醸成するとともに、地域の活力向上につなげる。						
	目標指標(H32)	山形駅西口拠点施設及び県内の主要な美術館・博物館等の入場者数	H32年度 790,000人					
	策定時の実績	358,310人(H27年度)	現状	380,845人(H28年度)	主要事業	郷土への愛着や誇りを育む文化・芸術の振興		
事業名	文化による地域への愛着・誇り醸成事業費			担当課・担当	県民文化スポーツ課 文化振興担当			
事業開始年度	平成28年度			事業終了(予定)年度	令和2年度			
事業の目的 (目指す姿を3行程度で簡潔に)	子どもたちが地域の文化を知り、興味を持ち、実際に体験・参加・発表する取り組みを通して、担い手の育成と伝統文化や芸術の次世代への継承、子どもたちの地域への愛着と誇りを醸成し、県内定着・回帰につなげる。							
事業概要 (5行程度で簡潔に)	文化芸術団体による学びの場の創出を目的とした総合型文化クラブモデル事業、子どもたちの活動発表の機会の創出を目的としたこども郷土芸能芸術まつり実施事業、文化団体・文化施設等による児童・生徒向けの文化体験プログラムの開発と実施に対する支援として文化芸術体験プログラム実施事業の3グループからなる事業。それぞれ、実施団体に対する補助事業であり、補助率は10/10。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他 上記実施方法とする理由:各文化団体において事業を機動的に実施できるようにするため。							
予算額・決算額 (単位:千円)	費目(予算見積書のグループ名)	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	総合型文化クラブモデル事業	3,015	4,015					
	こども郷土芸能芸術まつり実施事業	1,677	1,677					
	文化芸術体験プログラム支援事業	6,339	2,160					
	計	11,031	7,852	0	0	0		
	財源内訳 (単位:千円)	国庫支出金	5,514	3,925				
	繰入金							
	その他特定財源							
	一般財源	5,517	3,927	0				
	計	11,031	7,852	0	0	0		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	事業内での教室等開催回数	活動実績	回	113	177			
		当初見込み	回	120	90	45	55	
成果指標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標 (所管部局の分析)		単位	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
	教室等への参加者数 (教室等を回開催することにより、5年間で延べ1万人以上のこどもに文化に触れる機会を提供する。)	成果実績	人	2,432	4,353			
		目標値	人	3,900	3,000	1,500	2,500	
		達成度	%	62%	145%			
関連事業	総合型文化クラブモデル事業 こども郷土芸能芸術まつり 文化芸術体験プログラム支援事業 山形県総合文化芸術館整備事業費							

事業目標の考え方(事業目標設定時)

本県の伝統・文化に係る現状は、文化芸術団体会員の高齢化、伝統文化の担い手不足、指導者等の不足、若者参画の仕組み不足などによる次世代への継承困難等、課題が山積している。また、人口減少や少子高齢化に伴い、地域で継承されてきた郷土芸能等の維持も課題となっている。
 そこで県では、子どもたちが地域の文化に触れ、実際に体験・参加・発表する取り組みを行う団体に対し支援を行うことで、地域への愛着や誇りを醸成し、県内定着・回帰を図るとともに、伝統文化の次世代継承にもつながるものと考えている。
 本事業目標は、各事業参加団体数や、山形県総合文化芸術館オープニング事業との連携など総合的な判断のもと設定している。

事業所管部局による評価・検証（平成30年度）

	項目	評価	評価に関する説明
事業目標の妥当性・達成度	事業の目的は県民や社会のニーズを的確に反映しているか。	A	計画的に事業遂行し、文化、芸術活動の定着及び愛着・誇りの醸成を図り、計画に沿った成果が得られている。子どもたちが郷土芸能や文化芸術活動を体験し、発表の機会を創出し、活動の継続・発展と担い手育成につなげている。
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	A	
	目標水準は妥当か。	A	
	期待する成果が得られたか。	A	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	A	
事業内容の妥当性	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	A	補助対象事業の経費については、事業実施に必要な不可欠な費用に限定している。
	支出先の選定は妥当か。	A	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	A	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	A	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	A	
類似の事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。	A		
の役割 妥当 分性 担	市町村、民間等に委ねることができない事業なのか。	A	
今 改 善 の 点 課 等 題 ・	モデル事業を終了した各市町村又は団体等における継続した自主事業化を推進していく。 また、こども郷土芸能芸術まつりにおいては、来場者を増やせるよう広報活動に力を入れていく。		

- ・事業所管部局による評価にあたっては、以下の4つの選択肢から、1つを選ぶこと。
- A: 目標を上回って達成する見込み。期待通りの成果(100%以上)。妥当。
- B: 目標を概ね達成する見込み。概ね期待通りの成果(80~99%)。概ね妥当。
- C: 改善の余地あり。期待した成果を下回っている(79%以下)。
- ー: 該当しない